

【ポスターセッション】

主題：日本における SA(Schizophrenics Anonymous)の発展と展望

ーミシガンの SA の展開をてがかりにー

○ 福井県立大学 氏名 橋本直子 (会員番号2781)

キーワード3つ：SA (schizophrenics Anonymous) セルフヘルプグループ 支援

1. 研究目的

Schizophrenics Anonymous (以下 SA) は統合失調症とそれに関連する病気をもつ人々のセルフヘルプグループである。1985年にデトロイトで1人の統合失調症者の女性が立ちあげた SA は現在アメリカをはじめとした各地で150以上のグループが活動している。日本では2000年に最初の SA グループが誕生し、その後、いくつかのグループがたちあがり活動を続けている。そこで、本研究では日本の SA の現状と展開プロセスを把握し、今後の支援について考察することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

SA は AA をモデルとした12ステップに準じる6ステップを基本にリカバリーを目指して活動しているセルフヘルプグループであることに特徴がある。筆者はその点に着目し、SA を発展可能性をもったセルフヘルプグループとして捉えている。一方で、統合失調症をもつ人々のセルフヘルプグループは立ち上がっても継続しないことも多く、支援のあり方を考えていく必要がある。そこで、本研究では、日本で活動中のそれぞれの SA グループが基本的に同じプログラムをもちながらも、地域性や設立に至る経緯、支援背景が異なる中で、どのような展開プロセスを経て現状に至っているのかを調査により明らかにし、その上で、ミシガン州における SA の発展との比較から日本における SA についての今後の展望と支援のあり方について考察をおこなった。

調査は H23 年 5 月～H24 年 4 月の間に筆者がセルフヘルプグループとして活動していることを把握していた5つの SA グループを対象として、聴き取り調査と資料収集をおこなった。聴き取り調査においては、これまでの経緯として、開始時の状況、経過においての大きな出来事や変化、現在の状況について自由に語ってもらいながら情報を収集した。了解がえられた場面では録音し、その後逐語録も作成した。1 グループに関しては現状についての聴き取りとグループ設立前の支援プロセスの参与観察を行った。また、もう1グループは筆者が設立当時から直接的にグループ支援に関与しており、展開プロセスについての情報は既存の記録データも利用した。収集したデータは時間軸にそって、項目内容ごとに整理して分析した。

3. 倫理的配慮

聴き取り調査に関しては、対象者に書面と口頭により本研究の目的及び調査内容、デ

一タの取り扱い、個人情報の厳守について説明をおこない、同意をえた。また、調査結果については学会や論文として発表することについても説明をおこない了承をえた。

4. 研究結果

最初に開始されたグループの形式をベースにしつつ、参加メンバーの要件、開催頻度、ミーティングの形式、広報のあり方、リーダーシップのあり方、支援のあり方等に違いがあり、各々のグループが独自性をもってグループを展開していた。また、そうしたグループごとのあり方は開始から大きく変化することなく現在に至っていた。一方で、数年の経過を経ているグループにおいては、参加者の減少でグループ継続があやうくなるが、SAを必要としているメンバーのグループへのコミットによってその時期を乗り越えるという共通の経験があった。グループの課題としては、メンバーのグループへの定着やグループ継続の困難さ、周囲からの理解のえにくさといったことがあげられた。

調査結果の詳細は当日に報告する。

5. 考察

ミシガンのSAはMHAM (Mental Health Association in Michigan) とのパートナーシップのもとに発展してきた。Salemら(2011)の研究では、ミシガンのSAは設立から14年間で64グループが運営され、12年～14年時には42グループが活動していたが、こうした組織的発展とともにグループの組織的構造に変化がおり、セルフヘルプグループとしての独立性が失われたことを明らかにしている。ミシガンでは急激な組織的拡大の中で、専門家主導や当事者と専門家の協同リーダー制をとるグループが増加し、専門家の関与が深まる路線が展開されていった。本調査が対象とした日本のSAグループは、立ち上げのきっかけにソーシャルワーカーの関与が確認できたが、その後、それぞれのグループとメンバー自身が地道にステップを基本としたミーティングを続けることで当事者主体、当事者運営の独立性を確立していき、セルフヘルプグループとしての基盤が形成されていった。グループが広がらないことについては今後の課題ではあるが、日本のSAグループはセルフヘルプグループとして、また12ステップモデルとしたグループとしてはより着実な発展をしていると考えられる。SAのさらなる発展においては、グループの独立性を保ちつつも、グループ間の交流をさらに活発におこない、互いの経験や情報を分かち合っ、ゆるやかなつながりと構造を構築していくことが必要でないかと考える。また、支援者は良心的であってもSAの特徴、そしてセルフヘルプグループの本質をしっかりと理解した上で関わらなければ、支援がグループにとっての脅威となることを十分に認識しておく必要がある。ミシガンのSAを教訓に、この点においては今一度当事者と支援者の両方がセルフヘルプグループの原点であるAAの伝統や専門家との関係性から学んでいくべきである。